

6台玉突き事故

クレーンで男性救出

幸手署 出動の会社に感謝状

幸手市の国道4号バイパスで先月発生したダンプなど六台による玉突き重傷事故で、事故直後にクレーン車を現場に急行させ、車体に挟まれた男性の救出に協力した同市榎野地のクレーンリース会社「幸手クレーン」（新井邦雄社長）に対し、幸手署は感謝状を贈った。署員も当初、死亡事故を確信するほどの惨状だったが、同社の迅速な対応が一髪、男性の命を救った。

（関根義浩）

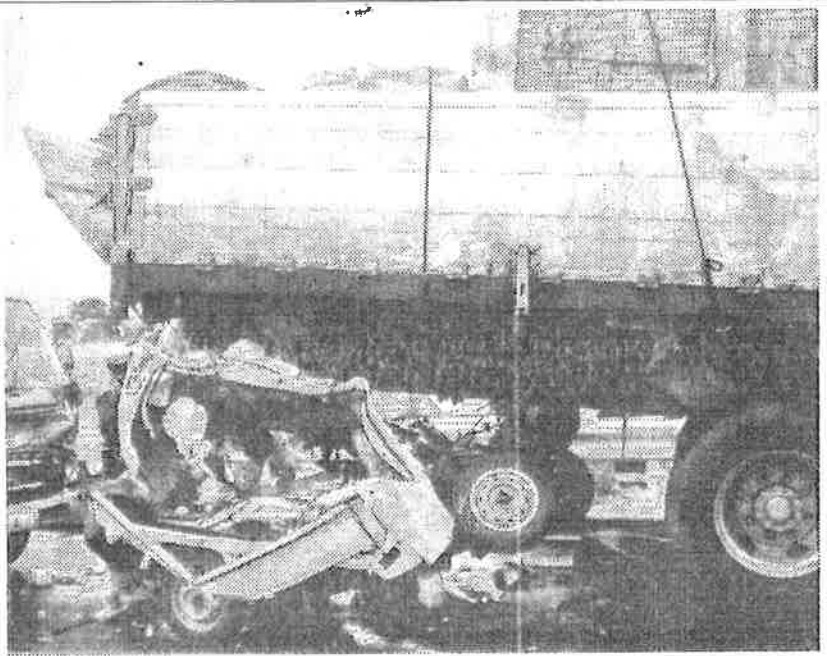
六月九日午後二時四十分ごろ、幸手市惣新田の国道4号バイパス下り線は渋滞していた。茨城県内の男が運転する、残土を積んだダンプが最後尾の車に突っ込んできた。追突した衝撃で、ダンプの二台前に止まっていた栃木県内の左官業男性の軽トラックが、前の大型トラックの車体の下に、めり込み、消えた。

同社の車庫は事故現場から百メートルの所にあつた。衝突音に驚き、女性事務員が事務所の窓からバイパス方向を見た。社有車と似た車が玉突き事故に巻き込まれていた。同社営業部の林信太郎さん（五十）ら社員四人が現場に走った。幸い、同社の車でなかった。人がいるはずもない大型トラックの下から、かすかに「お

い」と声が聞こえた。見ると、大型トラックの下で、軽トラックがぐしゃぐしゃに押しつぶされていた。「今思つと、だれを呼んでいたのかさえ分からない、あの声が救いだつた」と林さん。林さんは、すぐに消防に通報した。自分たちには何ができるか考えた。もし救出要請があれば、即出動できるよう車庫にあ

つたクレーン車のエンジンを入れ、同僚と待機。要請を受けて、クレーンを操作した林さんは「軽トラックはスルメのようにになり、男性は駄目かと思つた。男性が一命を取りとめたことを喜び、もう二度とあんな作業はごめんです」と当時の惨状に顔をゆがめる。二十年近く交通畑を歩んできた幸手署交通課の宮澤悟課長は現場に着くなり、「力が抜けるような感じ」に襲われた。「軽トラの車体がV字に曲がり、狭いところで厚み十センチほど。救命への断念もあつた」と明かす。

この事故で、幸手署はダンプを運転していた男を業務上過失傷害の現行犯で逮捕。渋滞で停車中の車の中にいた運転手ら四人が重軽傷を負い、重傷だった軽トラックの男性は現在も入院中だが、回復に向かっているという。



大型トラックの下にめり込んだ軽トラック。幸手市惣新田の国道4号バイパス（幸手署提供）

祭り盛り上げグッズ販売

（鈴木逸郎社長）は、関東一とされる各町六台の「道の駅」を、これだけ

に販売テントを開設する予定で、市観光協会は「観光客の誘い」をうけ

美の世界―塗り絵・CGポスケット展」が春日部

描いた風通動電

老舗酒井の
太田

市六軒町ケ丘支店長）内展かれてい

会場にツチした歌舞伎、など五十

本で描い、CG

一・グラクニック絵風に力

また、ケツチ原に拡大し